

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇1月12日～

今年は年明け早々、米国のベネズエラへの攻撃など地政学リスクが再び心配される動きとなっています。

トランプ大統領は、グリーンランドを購入する意欲を見せており、デンマーク領であるグリーンランドを巡っては欧州との間でも意見が対立しそうです。

グリーンランドは資源が豊富という話もありますがロシアとの距離が近いこと米国がグリーンランドを取得すればロシアにとっては大きな脅威となります。

また、ベネズエラだけでなく、コロンビアやイランなどへも米国が圧力を強める動きとなっているため経済以外のニュースもしっかり見ておく必要があります。

そして、先週末に発表された雇用統計ですが失業率は改善されていましたが非農業部門雇用者数は予想より少なく、AIによる雇用減の影響などが今後も続くのではという懸念もあります。

雇用統計の発表後にドル/円は円安方向に動いています。

これは、高市首相が解散総選挙を検討というニュースに反応した動きに見えます。

9日夜間の日経平均先物は、一時5万3860円まで急騰する動きとなりました。

ドル/円はテクニカル的に重要な158円を明確に超えてくると円安の動きが加速する可能性があります。

昨年秋、高市トレードで株価が暴騰したことを考えると選挙に絡んだ円安・日本株高の動きが再燃するかもしれません。

次の日本の利上げはまだ先だという予想が多く、米国が利下げに動きにくい状況となってきたことも円安要因となっています。

また、世界的に今年は再びインフレになるのではないかとという予想もあります。

トランプ関税、地政学リスク、資源高騰などがその背景にあります。

マーケットは楽観的な雰囲気ですが中国が日本に対して輸出規制を強化する動きに出してきました。レアアースも対象になるのかわかりませんがレアアースへの規制が厳しくなると製造業への打撃が大きく、堅調な日本株の動きも変わってくるかもしれません。

株高・円安トレンドが続いているため心配なさそうに見えますがファンダメンタルを考えると流れがいつ変わるか心配です。

為替市場では円安が進むと為替介入への警戒も高まりそうです。

12月の日銀の利上げ後も円安の流れは変わらず、このまま円安の流れが加速すると高市政権としても物価高(インフレ)が進むため大幅な円安は困ります。

衆議院解散報道で週明けのマーケットで円安、日本株高がさらに加速していくかどうか見ていきたいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週末に 158 円を一瞬超える動きとなりました。

158 円を超えると158.8円がターゲットになります。

こども超えると160円が視野に入ってきます。

ただし、160 円を超えると介入リスクが高まるため利益確定しながら高値追いは慎重に。

下値は 157 円を割り込んでも今年の安値の 156 円あたりを維持できれば堅調相場がしばらく続きそうです。

156 円を割り込むと154円台まで下がるリスクがあります。

<気になるクロス円>

クロス円も堅調に推移しているペアが多いです。

ユーロはウクライナやグリーンランドの問題もあり、ドルに対して下落しています。

ユーロ/円も年初から下げていましたが再度 185 円を目指す動きになるか注目です。

カナダドルは米国がベネズエラの原油利権を押さえたこともあり、やや軟調な動きとなっています。

先週安値(112.7円)を割り込むと、さらに下落していくリスクもあるので注意が必要です。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 11 月貿易収支などがあります。。

米国では12月消費者物価指数、10月新築住宅販売件数、12月月次財政収支、11月卸売物価指数、11月小売売上高、四半期経常収支(7-9月期)、12月中古住宅販売件数、前週分新規失業保険申請件数、1月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、1月ニューヨーク連銀製造業景気指数、11月対米証券投資、12月鉱工業生産、1月NAHB住宅市場指数などが発表されます。

欧州ではドイツでは 12 月消費者物価指数、ユーロ圏では 11 月鉱工業生産などがあります。

ほかには、英国で 11 月GDP、中国で 12 月貿易収支などがあります。